

枝番号	内容	標題	作者	頭書等	注記
001	父君歌	おもひきやはたね先に死ぬる身や きのうけふめてなからえんとは 秀直	奈良坂秀直	述懐	
002	父君歌	老いて行身や願事のなかりけり 子や孫の身をおもひすこして 秀直	奈良坂秀直		
003	父君歌	はかりなきみちの奥なるかよい路に 心つくしの身そあわれなる 秀直	奈良坂秀直		
004	父君歌	まつしくも清く月日を送りなは およはぬ事は願わぬそよき 秀直	奈良坂秀直	述懐	
005	父君歌	なつ深き青葉のなかをわけいてし こゑそ高間のやまほとときす 秀直	奈良坂秀直	名所時鳥	
006	父君歌	あつさ弓春の雲いもきさらきに 露をわけておう事もかな 秀直	奈良坂秀直		
007	父君歌	残りけるかたみは何と人とはゝ わか身そ父のかたみとこたえよ 秀直	奈良坂秀直	述懐	
008	父君歌	残しおく言のはもなき死出の旅 われなき後は身そまもるへし 秀直	奈良坂秀直	述懐	
009	父君歌	はかりなき心うき夜の雲はれて さやけき月を見るこそもかな 秀直	奈良坂秀直	秋述懐	
010	父君歌	懐みをりすれぬほどにまもりなは おとろくほどのけかそなかりき 秀直	奈良坂秀直	述懐	
011	父君歌	子や孫の身の行末をおもひかね ゆめもむすはぬ夜も有ける 秀直	奈良坂秀直		
012	自作歌	あすしれぬおのかよはひをよそにして 孫のおひさきいのる老の身 秀武	奈良坂源一郎	述懐	
013	自作歌	やからみな年のはしめに打よけて とそくみかはす今日のたのしさ 秀武	奈良坂源一郎	新年述懐	
014	献呈歌	敷島の道ふみ分て行としの な残をおしむ今日の友垣 為善	岩田為三郎	還暦会友	
015	献呈歌	のめよ酒うたへよ勲世の人を たくひまれなるけふのいはひに 寛	太田 寛	奈良坂先生の在官二十五年をい者 ひ亭	
016	献呈歌	定めなき花はあらしにさそはれて あたらさかりにちるか悲しさ 寛	太田 寛	奈良坂先生の令閨三ま可り多満ひ 个るを可那し三て	
017	献呈歌	君は世に年久しくもいそしみて つみしいさおは山も及はず 寛	太田 寛		
018	献呈歌	さく梅もしはのあたりにちりはてゝ 今朝はかなしくうくひすのなく 守射	酒井莊敬	玉子君の三ま可り為へるをい多三 て	
019	献呈歌	安らかに千とせの秋も君そ経む 六十の春をはしめにはして せき子	瀬木せき	奈良坂先生の還暦をことなきまつり て	
020	献呈歌	久方のふる巢の中のほとゝきす いそきもあへぬ春のやまさと 秀登	奈良坂源	名古屋るかへります日叔母上のほ とゝぎ須八との仰せに	

枝番号	内容	標題	作者	頭書等	注記
021	献呈歌	さくら花こそにおくれて咲きかてに 見ゆるは君をまてはなりけり 秀登	奈良坂源	昭和貳年五月名古屋の叔父上七十四の御高齢、ひさゝの御帰省にはから春も花の遅れたりければ	
022	献呈歌	世にとほく年ふるさとの花のうへに かゝやくけふのきみのいてまし 秀登	奈良坂源	光栄	
023	献呈歌	はからずもあるそらにおち君は 陸におはすかはた浪のうへか 秀登	奈良坂秀登	叔父君達海島金華山尔御詣ての日の空のい多くも阿れ礼ば	
024	献呈歌	まれ人はいまは来ましぬ今はとて 雨もふるらむかせも吹くらむ 秀登	奈良坂秀登	叔父君達来駕の明けの日となりて花尔あらしのあれければ	
025	献呈歌	君のもつメスのひかりは還暦の 賀に咲く筆といとかゝやかに 禾香	福沢稔	祝	
026	献呈歌	大正の三とせ筆咲く秋ひとひ 六十一歳を千代めでとほく 禾香	福沢稔	寄筆祝	
027	献呈歌	世にすくれいみしきメスよ六十一 かさねていよゝゝひかるたふとさ 禾香	福沢稔	メスに寄せて還暦を祝ひまつる	
028	献呈歌	むそひとつはるとあきとの花紅葉 それにもまさる君のさかえよ 禾香	福沢稔	還暦祝	
029	献呈歌	喜びのよはひかさねしきみなれは ちよの栄えはうたかひもなし 鈴木八十二妃	宮崎春子		裏に「同姓銘治ノ母」
030	献呈歌	酒もよしみさかなもよきもてなしに こゝろも身をもよひしひれけり 寿	山本寿	恩師の不可きもてなし二あひて	
031	献呈歌	もゝとせはうたかひもなし八十七かき 君とことはにおもかはりせず 寿	山本寿	七十九才の先生尔拝顔して	裏に「昭和7年6月5日偽詠」
032	献呈歌	七十路にあまる一つの師の君を いはひこそすれ我ら三人は 寿	山本寿		
033	献呈歌	峠まで未たなかゝの奈良坂や 六十一はほんの口もと 風山		恩師奈良坂先生の還暦越賀し奉りて	
034	四季歌	うつし植し花なれもなほ優さしきは こほれしたねの垣の朝貌 将載	石川将載	朝貌	
035	四季歌	さきぬれはさてはあらやと中ゝにこゝろつくしの朝貌の花 将載	石川将載	壺木花	
036	四季歌	立いてゝかえりみすれはわか宿の もゝの梢もうちかすみつゝ 長年	伊藤長年	桃	
037	四季歌	よへふりしあられしらゝのこりけり あさきたさむき竹のしたみち 弓月	掛布弓月		
038	四季歌	ゆく春を行にまかせて玉野川 きしの落葉に歌ふうくひす 慶次	蟹江慶次郎	初夏の頃玉の川尔て	
039	四季歌	咲梅の園のさかりは年ごとに とひこむ君を家もまつ哉 菖子	川合菖子		

枝番号	内容	標題	作者	頭書等	注記
040	四季歌	おほろ夜の花おもしろしおほろよの 月おもしろきお山田の里 七十七翁良雄	河合良雄	山家春月	裏に「八事山秀桑園主」
041	四季歌	のとけさに木の間をすきる山鳥の 尾上の松にかすみたなひく 七十七翁良雄	河合良雄	春鳥	
042	四季歌	此あたりねくらなるらむ我宿の うめの林に鶯の声 良雄	川合良雄		
043	四季歌	雨風にうめはおふかたちりたれと またすてかたき花そのにゐる 七十七翁良雄	川合良雄		裏に「河合良雄八事秀葉庵主」
044	四季歌	すゝしさにゆきゝの人もしはらくは あゆみとゝむるはしのうえかな 英吉	佐々木栄吉		
045	四季歌	朝ほらけたゝうくひすの一声に はるのすゝるのうきたちにけり 八拾三翁栄吉	佐々木栄吉		裏に「名護屋之人」
046	四季歌	青柳の糸ふく小野のはる風に すかりかねてもなく蛙かな 季厚	佐藤季厚		裏に「小野道風」
047	四季歌	むかつおの松にましりて色浅く みゆるはなにのもみちならむ せき子	瀬木せき	紅葉浅く	
048	四季歌	我そのゝ梅のさかりのときのみか つねにもしけくとひきませ君 菖子	瀬木菖子		裏に「良雄夫人」
049	四季歌	都大路なみ木のやなきはらゝと ちりてさひしく時雨ふるなり 平一	恒川平一		裏に「奥田大和先生の相続人」
050	四季歌	たてる茶はなしなに物とおもへとも 桜の匂ひをくみてさゝけむ 都鳥	都鳥翁		裏に「都鳥翁」
051	四季歌	宵の間に見果ぬ月の叢に ふときく虫の初声をきく 白山	村上竜之介		
052	四季歌	までどゝゝ君は来ましてさ夜ふけて しつけき庭に虫の初声 白山	村上竜之介		
053	四季歌	こゝろなく清き山の端なかむれは 風もすゝしく虫の初声 白山	村上竜之介		
054	四季歌	濱やかた見渡す浪はしつかにて 秋立今朝のかぜのすゝしき 白山	村上竜之介		
055	四季歌	つくろはぬ田中の伏屋梅さけり 花つくわたにさかせえぬまに みち子	若原三ち子	田家早梅	裏に「若原先生長女」
056	四季歌	時雨ふるゆふへのそらのさひしさも みやこおほちにはしられさりけり 重明			裏に「都時雨」
057	四季歌	氷るかと思ひし影も水鳥の うこけは動く冬の夜の月 七十五翁重賢		冬月	
058	四季歌	ひとむらの庭のなよ竹吹風も うれしき夏と成にける哉 □□		竹事夏来	
059	四季歌	ちる花をふみてさくゝあるきけり きのふさかりとめてしこすえを 良吉		踏落花	

枝番号	内容	標題	作者	頭書等	注記
060	四季歌	すみわたるみ空を見れば月さえて 風もすゝしく秋や立らむ 善城			
061	山水他	老木とも見えて若葉をしけりける しらす幾世かふるの神杉 寛	太田 寛	社頭新樹	
062	山水他	きえのこるみあかしさえていつくしま 朝みつ汐に千とりなくなり 弓月	掛布弓月	朝千鳥	裏に「短冊商むらさきや」
063	山水他	雲らぬをみ空のつきにねかはすは よにうきくもはあらしとそおもふ 慶次	蟹江慶次郎	月の頃述懐	裏に「尾張知多人」
064	山水他	ふらふらりと遊ふとかても瓢たんの むねのあたりにしめくりあり 栗山	栗田嘉平太		
065	山水他	鳴かけによるをのこしてわたのはら なみのほしろくしらみそめけり 正春	桜井正春	暁	
066	山水他	ゆふされは妹かなさけの麦酒に あわときえけりひるのつかれも 膳	佐埜藤太郎	夕独酌	
067	山水他	空高くまふあしたつの羽裏より にほひひいてたる初日影かな 膳	佐野藤太郎	朝暎紅	
068	山水他	鶯の啼音もまたて梅の花 あはれ嵐にさそわるゝとは 重視	志水重視		裏に「信州松本ノ人」
069	山水他	としを経てみとりわかやくおい松の 千とせを君にさゝけてしかな せき子	瀬木せき子		
070	山水他	をしかなく野すえはるかに日は落て 夕きりふかしみやまへの里 せき子	瀬木せき子	霧中鹿	
071	山水他	初ひさすみもすそ川水清く 塵なき空と俱に澄みけむ 独翁天小	田宮圭虫	河水清	
072	山水他	をりゝに雪めくまもこほれ来て うこかぬ月のそらにさえたる 平一	恒川平一	寒夜月	
073	山水他	清きくにふるきにうつる物かたり 神代に入りて夜はあけにけり 平一	恒川平一	談古	
074	山水他	谷水の音にもいつか耳なれぬ かりそめふきのいほに年経て 陶英	村手陶英		裏に「名古屋の人通称弥兵衛」
075	山水他	寺の名の妙に楽しき春日かな はなのさかりを思ふとちみて 宣長	本居宣長		色紙の中にあり
076	山水他	我のみとおもひしものを朝さくる とくみてきへる人もありたり 寿	山本寿	朝花	
077	山水他	へつらいてたのしきよりはへつらわて 賀しき身こそ心安けれ 道悟居士	山本義房		
078	山水他	あめつちのあらん限りは見あかぬるや 月雪花にかくらひの山 敷典		名所	
079	山水他	満汐のひるともみゆる道の夜は 濱の真砂の数そはまるゝ 桜雲		海辺月明	

枝番号	内容	標題	作者	頭書等	注記
080	山水他	とるさをの心なくもこきよせむ あしまのおふねさはりありとも		芦間舟をよ処を多まへる於本三口	
081	山水他	そりたつふしのかみ山日のもとの うこかぬみよのすかたなるらむ浪子		山	
082	山水他	手弱女かねふる姿ににたるかな ゆりおこしても花の色みむ □□絵も			
083	皇室	あめをうらみひとをとかむることもありし わかあやまちをおもひかへ	明治天皇御製	折尔不礼天	裏に阪正臣拜書、刷り物
084	皇室	うつにははしたかひなからいほにも とほすはみずのちからなりけり	明治天皇御製	水	阪正臣拜書、「明治天皇照憲皇太后御製及御歌拝刷」の袋入り
085	皇室	ことなしとゆるきころはなかにあたあるよりもあやふかりけり	明治天皇御製	心	同上
086	皇室	われとわかころをりかへりみよ しらすもまよふことあり	明治天皇御製	をりにふ連て	同上
087	皇室	おやもこもしたしみかはしいへのうち にきはへるこそたのしかりけり	明治天皇御製	家	同上
088	皇室	ひらけゆくみちにいともころよき つまつくことのあるよなりけり	明治天皇御製	折尔不礼天	同上
089	皇室	たらちねのみおやのをしへあらたまの としふるまにみにそしみけ	明治天皇御製	親	同上
090	皇室	をさなこのものかくあとをみてもしれ ならへはならふしあるよを	明治天皇御製	手習	同上
091	皇室	おのかみをさむるみちはまなはなむ しつかなりはいいとまなくとも	明治天皇御製	民	同上
092	皇室	よのなかにあやふきことはなかるへし たしきみちをふみかたへす	明治天皇御製	道	同上
093	皇室	ならひゆくひとはよしやおくるらん たしきみちをふみなたかへそ	明治天皇御製	道	同上
094	皇室	すかのねのなきはるひはなかにものにおこたるひとそおほか	明治天皇御製	春日	同上
095	皇室	ゆきにたへあらしにたへしのにこそ まつのくらゐもたかくこえけれ	明治天皇御製	松	同上
096	皇室	もつひとのころによりてたからとも あたともなるはこかねなりけり	昭憲皇太后御	金	裏に阪正臣拜書、刷り物
097	皇室	こかひするとときしられてとしひの かけもねふらぬをやまたのさと	昭憲皇太后御	田家夜	裏に阪正臣拜書、刷り物
098	皇室	きみとおみの口ちあきらけきひのもとの くにはうこかしよつよまてに	昭憲皇太后御歌	寄国祝	阪正臣拜書、「明治天皇照憲皇太后御製及御歌拝刷」の袋入り
099	皇室	むらきものころにとひてはちさらは よのひととはいかにありとも	昭憲皇太后御	正心	同上
100	皇室	みかきもるひとをそおもふかせさゆる しもよのつきにうめのはなみ	昭憲皇太后御	寒月照梅花	同上
101	皇室	ひとりのみおもふころのよしあらしも てらしわたらむあめつちのか	昭憲皇太后御	慎獨	同上
102	皇室	きみをおもふまことのみちのひとすちは かねてもしるしはなつひとや	昭憲皇太后御	菅原道真	同上
103	皇室	とるふてのあととはつかしとおもふかな ころのうつるものとしりては	昭憲皇太后御	筆写人心	同上
104	皇室	さかみちをひとにひかせてころなく くるまのうちに手まりけるかな	昭憲皇太后御	人力車	同上
105	皇室	おほやしまみいつくしみのひろきよは なみのちさともとなりなりけり	昭憲皇太后御	四海清	同上
106	皇室	おほやしまみいつくしみのひろきよは なみのちさともとなりなりけり	昭憲皇太后御	四海清	同上
107	皇室	おこたらてときをうつはのいさめすは あくるもしらしはるのたまくら	昭憲皇太后御	枕辺時計	同上
108	皇室	ますらをかゆつるにかけてはなつやの めにもとまらずゆくつきひか	昭憲皇太后御	光陰如矢	同上
109	皇室	ひのもとのうちにあまりていつくしみ とづくにまてもおよふみよかな	昭憲皇太后御	赤十字社へ下賜の御歌	同上
110	皇室	立山の空に聳ゆる雄しさに ならへとそ思ふ御代のすかたも	東宮御歌		阪正臣拜書、「明治天皇照憲皇太后御製及御歌拝刷」の袋入り
111	皇室	はつ日の出をくかみ越へてかへりみる 空につけり不尽のたかね	東宮妃御歌		刷り物

枝番号	内容	標題	作者	頭書等	注記
112	皇室	波風のしつかなる日もふなひとは かせにこゝろをゆるさゝらなむ 東波謹書		御製	刷り物
113	皇室	神代よりおなし根さしの白菊の さかり久しき君か御代かな 静輝	藤原静輝	勅題菊盛	
114	皇室	今宮にたひらましたる世の音に みゝかたふくるよもきふの庭 寿	山本寿	聞虫	裏に昭和6年11月3日明治神宮献詠題選
115	時勢	波あらきつかさのうみにたゝよへる いろくつかにしつこゝろなき 東波	東波	大官興己	刷り物
116	時勢	うつしうえてやまとなてし子茂らせむ すさむひろ野をかりひらきつゝ 東波	東波	満蒙移民	刷り物
117	時勢	もろこしのはらにしけるしこくさの ねのたえむ日を満ちわたるかな 東波	東波	匪賊討伐	刷り物
118	時勢	風のむきふきかはらし事はかる 日比谷のはらに萌わくうき雲 東波	東波	新議会	刷り物
119	時勢	ふきあるゝ世の波風をつかさひと いかになこめて事かちとるらむ 東波	東波	新内閣	刷り物
120	時勢	うちははすつつおとやみて鶏の 歌にあけゆくもろこしかはら 東波	東波	暁鶏声	刷り物
121	俳句	寒月やかけを護りて帰りけり 十郎	北十郎	宴会の帰りに	裏に「在大坂北十郎」
122	俳句	伸びらぬうちか花なり初薇 二不猷	二不猷		
123	俳句	風に騒ぎ雨にしつまる落葉哉 郁波	郁波		
124	漢詩	玉壺僊藥亦君臣、寿酒迎年霞氣新、国手一匙多活法、挽回四海万 邦春 重熙	一色重熙	病院新年	裏に「尾張ノ儒者」
125	漢詩	人間榮辱委蒼旻、薄命先生家百貧、呼馬咩牛何所害、任他群小謗 抱唇重熙	一色重熙		
126	漢詩	在官三十載、碩学盛名伝、瑞氣環書屋、先生福德全 百畝寛	太田 寛	賀奈良坂先生在官三十年	
127	漢詩	氷心玉骨影横斜、雪裏回春曾不誇、藤促滔々持節少、欲堤陰壑学 梅花 礫浦老漁	礫浦老漁	奉寿奈良坂先生還曆	
128	漢詩	海潮深淺小蓬萊、百八神燈向晚催、貝闕朱宮人世在、蛟龍髣髴弄 玉来 礫浦老漁	礫浦老漁	奈良坂先生鄭正	
129	漢詩	斯界泰山推此翁、風流况又輞川風、齡過六十童顏麗、彭寿果看仁 術功 辱知高塚二男三郎拜草	辱知高塚二男三郎拜草	祝奈良坂松洲先生之還曆	
130	漢詩	敲門嘉客鳳鸞儔、握手迎來坐小樓、地僻田家侑無物、一痕涼月在 漁舟半溪老人	半溪老人	庚戌七月十三日奈良坂国手及櫛田君見訪賦此以呈足	
131	漢詩	雄風一鼓大鵬翼、夢覺孤床燈火仄、蕉竹暗々雨耶非、鸚鵡叫破五 更黑七十二叟蕉雨順	七十二叟蕉雨順	夢後	裏に「名護屋藩」
132	漢詩	運甓刺史思折翼、擘風胡相能畏天、堪嗤英略大司馬、自留惡臭遺 万年七十二叟蕉雨埜順	七十二叟蕉雨埜順	偶成	
133	漢詩	十里長堤十里流、騷人多少泛遊舟、春風吹動新楊柳、鬢髮參差梳 岸頭成秋逸人	成秋逸人	楊柳	

枝番号	内容	標題	作者	頭書等	注記
134	漢詩	鬼奴一隊不知名、五々三々犯夜行、我愛奇形多變化、其如画史筆猶生成秋逸人	成秋逸人	百鬼夜行	
135	漢詩	重陽過後老秋光、况是淋々陰雨雄、金使黃草妻怨舌、遠其晚節還幽香九壽	九壽		
136	漢詩	人生何事手中無、利走名癡皆可嗟、試掬清流江上立、半天名月岸頭花 竹西	竹西		裏に「仙台ノ人」
137	漢詩	身在紅樓暗懷神、盃盤狼藉座生春、忠意不識存何處、解語花中爛酸人百畝	太田 寛	題大石良雄遊宴図	
138	漢詩	枯木添佳色、豊年祥瑞加、椽花如白雪、白雲似梅花 百畝	太田 寛	雪	
139	漢詩	夜涼虚閣洗餘醒、過雨行雲月減明、羅扇抛來眠不得、万荷花裏水鷄啼磔浦老人	磔浦老人	水閣夜坐録応作	裏に「磔浦老漁、内海町之医」
140	漢詩	霜歷曉窓眠易殘、起燒楮擁蒲台、夜來幽夢得甚定、身化梅花傲歲寒磔浦老漁	磔浦老漁	歲晚小占	裏に「磔浦老漁、内海町之医」
141	漢詩	兀坐梅花香動辺、寒燈檠下轉凄然、春体三十舞成業、空復沈吟送一年浮沈生	浮沈生	歲暮感懷	
142	漢詩	梅影横斜蘸砚池、麝媒香裏日遲々、春風五々年華改、又弄羊毫筆一枝精齋	精齋	壬辰新年	
143	漢詩	青帘招客影婆娑、在舟翹塵池畔坡、隔水影簾人半散、花依稀外夕陽多東ヲ殊垣紫楯	東ヲ殊垣紫楯		裏に「犬山藩」
144	漢詩	此淚誰知吊旧情、碑銘扁句記忠誠、可憐芳野觀花家、漫說一眸千樹桜半百道人	半百道人		裏に「俗称盈三」
145	漢詩	神路山頭瑞氣生、於鷄啼々太平明、放光五十鈴川水、不濁千年万歲譜天小	天小	丙寅秋題河水清	
146	漢詩	為国為君那小全、聖恩未報古稀年、愛懶惰復吹破笛、空送光陰贊米錢古稀翁天小	古稀翁天小		裏に「伊勢河芸郡箕田村光照寺住」
147	漢詩	允文兼允武、萬世一系存、皇威輝日月、聖德滿乾坤、檀原奠都迹、來拜神靈尊 藤原静輝	藤原静輝	檀原覽古	
148	漢詩	柳塘綠不富、萃蕪春色淒、風勢愈童？(人+而大)、紙鳶飛尚低	蔭涼		裏に「大光院32世」
149	漢詩	月也描華影、華乎弘月明、黄昏人未返、怕？(足+旬)月華行 君	君川徳		
150	漢詩	玉質在衣裏、不知醜卧時、起来開眼見、燦爛靈光奇 沙門	沙門龍跳	為玉質靈光童女法語	
151	漢詩	桃開鶴笑三千歳、榴獻龍標百子国 馮雪郷	馮雪郷	光緒十九年葵巳夏日	
152	漢詩	星河澹欲無縹緲、秋天碧零露何瀼々、風吹灑几席清夜、不忍眠吟哦聊自、適哀蟀鳴庭除明、… 幽居秋夜醒重哲夫	幽居秋夜醒重哲夫		
153	漢詩	銀鏡冷然懸霜風、透明天地玉玲瓏、横斜疎影氷池上、香雪一団浮碧空臣清拜具	臣清拜具	恭賦寒月照梅花	
154	漢詩	秋草獨重君、偏綠全晚節 蝸廬	蝸廬		
155	漢詩	未問那辺理、其心已快哉、山禽啄花去、野鹿聽經來 蘿山	蘿山武	題妙楽寺壁	
156	漢詩	数畝荒園夏木深、堪思高士事耽吟、衡門今日人奕鎖、留得松声千古心庫山需士	庫山需士		
157	漢詩	屋前花似錦、簾外雨如練、濃艶真無此、黄昏拳盞時 丘	丘斎生		

枝番号	内容	標題	作者	頭書等	注記
158	漢詩	一国蝴蝶掠燈飛、欲浣詩人旧酒衣、莫道風流無宋玉、水精簾底醉忘歸碧海漁人佐藤勤也	佐藤勤也	戲贈	
159	水墨	[樹花] 松洲	奈良坂源一郎		
160	水墨	[風光] 春江帰帆 堀田	堀田幾三郎	奉祝奈良坂先生還曆	
161	水墨	[松] 堀田散人	堀田幾三郎	奉祝奈良坂先生還曆 丁卯晩夏	
162	水墨	「四時の梅」 松洞僊居石斎		裏に「松崩堂義兄之應需写、兄といふ名尔恵まれ天 四時の梅」	
163	水墨	[山水] 天僊	天野天僊		
164	水墨	[山水] 一脈飛泉清且甘 東都山人	太田季次		
165	水墨	[山水] 田家早梅 清隠	加藤清隠		裏に「名ハ欽治、千種ノ人」
166	水墨	[山水] 清隠	加藤清隠		
167	水墨	[花鳥] 僊細	仙洞		
168	水墨	[花] 秋峯	竹村秋峯筆		裏に「文展入選者」
169	水墨	[山水] 月桂写	原月桂		裏に「名古屋ノ人」
170	水墨	[竹] 芝堂仙受	三尾太傳治		
171	水墨	[山水] 峯巒明秀 紫水神谷彦	神谷彦	壬午夏写霞外山口口	
172	水墨	[竹] 虚心平安 逸舟	逸舟		
173	水墨	[風光] 雷雨解嶂 翠雲鏗	翠雲		
174	水墨	[竹] 秋風曇玉 翠雲写	翠雲		
175	水墨	[梅] 人嫌古蕭疎… 清風居松里写	清風居松里		
176	水墨	[鳥] 秋逸太郎写	秋逸太郎		裏に「二月」
177	水墨	[鯉] 三峰	三峰		裏に「十六」
178	水墨	[花] 蓼洲	蓼洲		裏に「村瀬」
179	水墨	[風光] 松口宇			
180	水墨	[富士] 口口			
181	水墨	[滝] 口口			
182	水墨	[落葉] 翠畝	翠畝		
183	水墨	[雀] 口鳳写			
184	水墨	[風光] 玉春	玉春		
185	水墨	[系瓜] 月昇	月昇		
186	水墨	[日の出] 乾山	乾山		
187	水墨	[花蜘蛛] 雲空	雲空		
188	水墨	[花蜻蛉] 春草	春草		
189	水墨	[雀] 秋荘写	秋荘		
190	水墨	[花蜂] (落款)			
191	水墨	[朝顔] (落款)			
192	水墨	[花蝶] (落款)			
193	水墨	[栗] (落款)			
194	水墨	[鹿] (落款)			



枝番号	内容	標題	作者	頭書等	注記
195	水墨	[藤] (落款)			
196	水墨	[竹虫] (落款)			
197	水墨	[花蝶] (落款)			
198	水墨	[朝顔] (落款)			
199	水墨	[椿] 松濤	松濤		
200	水墨	[鶴]			
201	市販品	竹内栖鳳筆の絵			
202	市販品	川合玉堂筆の絵			
203	市販品	鍋本清方筆の絵			
204	市販品	島成園筆の絵			
205	市販品	木谷千種筆の絵			
206	市販品	北野恒富筆の絵			
207	市販品	小林古徑筆の絵			
208	市販品	伊東深水筆の絵			
209-300		欠番			
301	書	四海論度見豪氣 一門風雅善多才	楊煥周	奈良阪先生雅屬即正	183×50
302	書	手不停披	楊煥周	奈良阪先生雅鑑	43×146
303	書	石台鳥重丹山神 不知秘何必露光 道夜半驚声口	秋坡金在珣	為奈良坂君囑	140×35
304(1)	書	恭祝愛知医学専門学校教諭兼教務部長医学士奈良阪源一郎先生 花甲一週寿序 蓋聞立德者必立言太上垂於百世...	陳憲鎔浣手他	中華民國留學門生、大正3年8月	147×45、6枚
304(2)		看霞流橘井花甲欣逢幸值春...			
304(3)		身キウ現寿相也其對於愛知医專也...			
304(4)		所以敢望 門ヲウ而輸誠敬対 函丈而...			
304(5)		先生福德之厚当是東王仙籍...門生陳憲鎔浣手撰文、湯伝良薰沐			
304(6)		中華民國留學門生 楊煥周 他 大正 中華民國三年八月 穀旦			
305	書	忠李	墨亭主人大雅 洞居士	為奈良坂博士、丙寅之春	31×130
306	書	謹慎	熙廷	奈良先生雅鑑	35×68
307	書	多美く佐の葉末まで耳も可、里个李 猶本う知やまの萬都のした露	八十口日哉	昭和三と勢の霜月十日管志盃と酒肴料を賜ハリタリかしこさに	130×31
308	書	奈良阪源一郎息女葬礼式法語	蔭涼釈氏龍峯	明治19年	30×86(本体)
309	書	修徳養根	浩州学人	於絹丘書莊...	35×122
310	書	万病作一寿	井村大年		170×36、表装、軸
311	書	西飛可しよる辺さ堂めぬ宇幾具さ乃あ累耳甲斐な幾根をうらむ加那	秀武	萍	122×32
312	書	にし飛可しよる辺さ堂めぬう紀草乃阿る耳かひな幾根をうらむ加那	秀武	萍	128×34
313	書	西ひ可ししよる辺さ堂めぬ宇幾くさ乃ある耳甲斐なき根をうらむ加那	秀武	萍	128×34
314	書	奈医学徒数三千良後輩出非偶然阪越七旬仙骨健源々寿等不至年	板津田北	奈良阪源一郎先生古稀	180×41、表装、軸
315	書	[襄陽米市芾後] 涼雲滿地竹籠煙	襄陽米市芾		182×41、表装、軸
316	書	元上四????	謝澍	岳父大人六壽正慶	98×21、表装、軸
317	書	四開五福寿為先	謝澍	婿権野哮金へん太郎恭祝	98×21、表装、軸

枝番号	内容	標題	作者	頭書等	注記
318	書	(拓本)久埜[宗海]碑文 前	明治十三年十月西尾忠篤篆	永阪周二撰、清国郭宗儀少泉書	98×37
319	書	(拓本)久埜[宗海]碑文 後	明治十三年十月西尾忠篤篆	永阪周二撰、清国郭宗儀少泉書	98×37
320	書	(拓本)久野君止墓表			20×80
321	書	於本太ひろし書	大田 寛		32×6、折帖
322	書	中平一年富世造、楽大詞徒……	王澍	奈良坂君雅囑	112×50
323	書	小篆 楹聯 情裏妙以？家雅人如？ 二聯	徐三康		166×41、軸
324	書	游月瀬禎詩	辱知扇溪逸史大録仲秋	甲午春三月々瀬家次録折腰数詩寄在金口城中松州奈良阪盟兄併請大正	68×136
325	書	東母水扁惜？リ……	天真	乙卯暮春為雅鑑	53×145
326	書	密翁々托照翁々榮辱人間答与通寂夜元来疎懶甚不将啓事迺山公	城陽雲	奈良坂先生正之	205×45、表装、軸
327	書	かく者可利なと雨風の春さふら舞 以可に阿らしのや万な連盤登て寛	太田 寛	嵐山にて風雨に阿ひ多れハ	194×45、表装、箱入り
328	書	うち可者の起よきな可連に寸る国の 美よしのか希を春るたちして寛	太田 寛	宇治橋にて梶原の氣馬越つなわたり…	194×45、表装、箱入り同 上
329	書	(佐屋川船中作長編)水難碑畔日欲暮……… 百畝寛	太田 寛	辛未晩夏渡佐屋川赴桑名舟中作	202×47、表装、箱入り
330	書	さや可な類月に迎へる口しときむ可し遠しのふ可連盤見る个利秋実	浅井秋月	橋本口嶺亡翁のおりし世のことを……	100×48、表装、浅井秋月の和歌
331	書	満歳可禮春君のことしの花曆 知累としらぬ科紀筒急仁 汗 釘七郎	熊澤釘七郎	奈良坂先生のの賀延に連なりて	105×57、表装、熊沢氏寄贈還曆懷紙
332	書	藤田東湖正気歌、倉尾古岳書	藤田東湖		195×65、表装
333	書	新年雪、年たちてふる御台生のしらきとはとみてうるほふ大和たみくさ源一郎上	奈良坂源一郎	「堅口詠草書式」中	33×45
334	書	しろかねのよとみるゆきはあたらしき としのひかりをそへてけるらむ寛上	大田寛	「堅口詠草書式」中	33×45
335	書	敵花不可攀翔芯久未墜忽下幽人前知子觀空坐	不屈山人書	大正之八初夏	30×24
336	書	手をひかれくすしの道越とほとほ登 阿ゆ見そ免尔しむ可しこひしき	中口		30×24
337	書	富茂名も月の前二は奈可り个梨	かく丸		30×24
338	書	うれしさをい可尔世よとかわ可宿越 叢の於や口登ひ来ま志个ん	傳		24×30
339	書	古稀にな里嬉し世積の初口	一心		19×28
340	書	(印書)武夫の劍の光りくもらずば世にまかつびのあせまじものを	布典		22×33
341	画	新緑山水[軸頭]	石雲		130×29(本体)、軸
342	書画	いるそとは風のもと来る落者可那	南海、吉中者印		97×34(本体)、軸
343	書画	无都医二天……	浩州哉墨		130×35
344	書画	首長く嘴長く足奈可く 命も長具よく遊び	大口散人戯墨		34×34
345	墨絵	墨絵習作[芭蕉]			155×48
346	墨絵	墨絵習作[表・神農図、裏・恵比寿大黒図]			69×40、不要軸借用

NUM-Ln08

奈良坂源一郎関係史料(短冊書画)

名古屋大学博物館

枝番号	内容	標題	作者	頭書等	注記
347	墨絵	墨絵習作[知多湾遠景]			34×133
348	墨絵	墨絵習作[渥美湾遠景]			34×91
349	墨絵	墨絵習作[伊良子遠景]			34×44
350	墨絵	墨絵習作[篠島周辺]			34×133
351	墨絵	墨絵デッサン			25×34
352	墨絵	墨絵デッサン			25×34
353	墨絵	墨絵デッサン			12×32
354	墨絵	墨絵デッサン			12×32
355	墨絵	墨絵習作			12×32
356	墨絵	墨絵習作			21×71
357	墨絵	墨絵習作			21×71
358	墨絵	墨絵習作			25×71
359	墨絵	山水	広山、真鈴堂印		129×30(本体)、軸
360	墨絵	生花	七十四叟耕石	□南山之寿	138×35、本体のみ、軸